

会 議 録

会 議 名	令和5年度第4回東浦町子ども読書活動推進会議	
開 催 日 時	令和6年2月29日(木) 午後3時から午後4時45分まで	
開 催 場 所	東浦町中央図書館2階 大会議室	
出 席 者	委員等	浅井真司氏（委員長）、奥田英子氏（副委員長）、太田真理子氏、大島聡子氏、畔上美千代氏、祖母井綾乃氏、鷹見みゆき氏、松下玲子氏、尾方悦子氏
	事務局	横井教育部長、佐東生涯学習課長、関課長補佐兼係長、長谷川主事 (株)図書館流通センター 島津図書館長、平松サブチーフ
議 題 (公開又は非公開の別)	1 東浦町子ども読書活動推進計画（第4次）の原稿決定について（公開） 2 令和5年度「東浦町子ども読書活動推進計画（第3次）」に係る実績報告について（公開） 3 その他（公開）	
傍聴者の数	0名	
審 議 内 容	<p>◆生涯学習課長 会議成立の報告を行う。</p> <p>◆教育部長 (挨拶)</p> <p>◆生涯学習課長 委員長に議事の取り回しを依頼する。 以降は委員長が議事を取り回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い議事を進める。議題1「東浦町子ども読書活動推進計画（第4次）の原稿決定について」を議題として、事務局からの説明を求める。</p> <p>◆事務局 事務局よりパブリック・コメント意見募集結果を報告し、パブリック・コメントを受けての原稿案の修正はないことを説明する。第4次東浦町子ども読書活動推進計画（案）について、第3回東浦町子ども読書活動推進会議後に行政経営会議、議会での報告を経て原稿案に修正を加えた点を説明する。資料1及び資料参考1に基づき説明する。</p> <p>◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見や質疑を募る。</p>	

【主な意見や質疑は次のとおり】

◇委員

パブリック・コメントの意見であった私設図書館と似た事例として、賛同した町内のお店に箱本棚を置いて、中央図書館から譲渡されたりサイクル本を設置する活動を東浦町でも行っていたと記憶している。現在、その活動はどうなっているのか。

◆事務局

「ぐるぐる図書館 in 東浦」の活動は現在も継続している。東浦町中央図書館とかつて存在した団体「よむらびサポーターズ」の企画により生まれた活動であり、活動内容としてはパブリック・コメントで記載のある制度と似ている。ただし、「ぐるぐる図書館 in 東浦」はオーナーも利用者も全てのサービスを無料で提供及び利用できる制度である。私設図書館の事例では、有料でのサービスが含まれている。公共図書館無料の原則のある公共図書館をはじめとした公共施設の各関連機関で推進する本計画において、有料でのサービスを展開する私設図書館の支援を行うことは現状難しいと判断する。

◆事務局

現在の「ぐるぐる図書館 in 東浦」の参加館のひとつである「地域の縁側グリーン・ラソ」は、中央図書館団体貸出制度を利用し、毎月 50 冊ずつ資料を入れ替えしている。東浦町中央図書館は今後もぐるぐる図書館の活動支援を行っていく。

◇委員

資料 1 の P13 (2) 不読率の低減について、1～2 行目の「読書に興味がない子どもも親しみやすい読書へのきっかけ～」という表現を「読書に興味がない子どもも読書に親しむきっかけ～」という表現の方が読みやすいのではないか。

◆事務局

承知した。表現を改める。

◇委員

資料 1 の P14 の 9 行目「読書の楽しさを知り、本に親しむことにつながります。」という一文について、「読書の楽しさを深めることにつながります。」という表現の方が読みやすいのではないか。

◆事務局

承知した。表現を改める。

◇委員

資料 1 の P23 (1) 目標値について、資料 4 の最新数値を参考にしないのか。資料 4 の数値と比較すると、資料 1 に記載のある 13～15 歳の目標値は、かなり高い数値設定となっている。一方、16～18 歳の目標値

は、既に現状の数値を達成している。また、資料1のP23(4)団体貸出の目標値については、現状の数値が既に目標値を達成しているため、もう少し高い数値設定でもよいのではないか。子どもの数は減少しているため、第3次計画の昔の数値を基準にした目標設定をすると現状と合わなくなってきてしまうといえる。

◆事務局

目標値と現状数値を比べると差が大きすぎる点があるため、目標値は修正する。

◇委員長

議題1に関する他の意見がないことを確認し、質疑応答を締め切る。

◆事務局

資料1の計画案へ本日の意見を踏まえて、修正を加えたものを、子ども読書活動推進計画(第4次)の完成版とすることを報告する。

◇委員長

議題2「令和5年度「東浦町子ども読書活動推進計画(第3次)」に係る実績報告について」を議題として事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料1に基づき、各関連機関からの実績書内容について説明する。保育園・児童館・子育て支援センター、健康課、生涯学習課、図書館、学校の順番に報告を行う。保育園・児童館・子育て支援センターの説明については、西村委員及び木水委員へ報告を求める。

◇委員

資料2に基づき、各保育園、児童館、子育て支援センターの実績報告を行う。

◆事務局

資料2に基づき、健康課、生涯学習課、図書館、小中学校の実績報告を行う。

◇委員長

事務局及び関連機関の報告を受けて、委員の質疑を募る。

◇委員

資料2のP12, 13について、森岡小達成度が1となっている項目がある。記載内容と比べると入力間違いが疑われる。入力間違いでないのであれば、森岡小学校は昔から読書活動が活発であったため、評価の付け方が厳しすぎるのではないか、という気もする。

◆事務局

担当教諭へ改めて確認する。
(→記入誤り。正しくは資料2訂正版のとおり)

◇委員

資料2のP2リサイクル資料の活用について、新田保育園の達成度が1となっているがどのような理由か。

◇委員

該当の保育園へ改めて確認する。

◇委員長

引き続き事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料3に基づき、令和5年11～12月に町内小学校3、4年生へ実施したアンケート結果について説明を行う。資料4に基づき、東浦町子ども読書活動推進計画(第3次)の振り返りについて説明する。

◇委員長

事務局の報告を受けて、委員の質疑を募る。

◇委員

資料4について、貸出点数の数値に、電子図書館の貸出点数は含まれているのか。

◆事務局

電子図書館の貸し出し点数は含まれていない。紙媒体の本のみの貸出点数である。

◇委員

子どもが、学校からタブレットを持ち帰って、電子図書館を利用している。学校から帰ってきてから中央図書館まで行くとなると頻繁には通いづらい。電子タブレットで電子図書館がすぐに利用できるし、シリーズの読み物も、読み終わったらすぐに続巻が読めるため、子どもは喜んでいる。そのような子どももいるため、電子図書館の貸出点数も含めると貸出点数の数値はもう少し増えると思う。

◇委員

今後はタブレットの貸出点数も集計して、計画推進に反映する予定はあるか。

◆事務局

第4次計画では電子図書館の活用も推進していくため、今後は電子図書館の貸出点数も集計し、数値として比較していく。数値としては、紙媒体の貸出、電子図書館の貸出で数値を分けて集計していく。

◇委員

資料4P2の間8「1か月間家で読んだ本の冊数」にも電子書籍の貸出数値は含まれていないのか。今後は電子書籍の数値も含めるべきではないか。第4次計画では紙、電子の媒体を問わず、子どもが読書に親しむことを最大の目標にしている。図書館に来館して本を借りるということが大きな目標ではないため、中央図書館の貸出点数が増えないことが、子どもの読書率の低下を結論付けるものではない。アンケート結果では、16～18歳の中央図書館での貸出点数が増加傾向である。この結果からは、中央図書館に魅力を感じて、自力で来館できる子どもたちも増えていることがわかる。今後のアンケートの設問は、中央図書館への来館率、貸出冊数にとらわれないよう、検討が必要である。

◆事務局

ご意見のとおりである。第3次計画策定時は、第3次計画推進期間中に電子図書館が導入完了することを想定していなかった。令和4年度より、指定管理者制度を導入し、(株)図書館流通センターが早速、電子図書館の整備をしてくれ、町内小中学校でも電子図書館の利用が可能となった。そのため、こちらのアンケート結果には電子図書館導入後の現状が反映されておらず、現状にアンケート結果が追いついていない状態である。今後は、電子図書館の貸出数値も踏まえたアンケート設問を検討していく。また、子ども読書アンケートに関わらず、中央図書館年報の統計についても、ご意見を踏まえて項目を検討していく。

◇委員

アンケートの設問設定で気をつけて欲しい点がある。例えば「電子図書館を利用しましたか」という設問だと、電子図書館の利用を強制するようになってしまう。紙、電子の媒体を問わず、読書をしたかどうかを問う設問にするべきである。アンケート項目の設定の検討を願う。

◆事務局

承知した。

◇委員

資料4P2問7「寝る前の読書」の数値が下がっている。事務局から説明があったように、生活習慣の変化による数値低下であれば、第4次計画では、あえてこの設問を継続しなくてもよいのではないか。この設問を設定している理由はあるのか。

◆事務局

第1次計画の当時から「寝る前の読書」は推奨している。寝る前の時間に本を通じた親子のコミュニケーションを目的としていた。現状、寝る前の子どもたちはどのような様子であるのか。

◇委員

児童クラブに来ている子どもから聞いている話であるため、一概に全ての子どもに当てはまる訳ではないが、現代の子どもたちは1人で寝る傾向にあるようだ。寝る前に親子で過ごして、本を読んでいるのは未就学児、小学1年生あたりの子どものみであると考えられる。

◇委員

第1次計画からこの設問があるのは、親子読書の言い換えで、寝る前の読書として低学年を対象として設定した設問であると推測される。また、この設問は、問4の設問内容とも重複しているため、設問の検討が必要である。

◆事務局

時代の変化に合わせて状況が変わってきているといえる。今後は、アンケート項目を検討していく。

◇委員長

議題2について質疑を締め切り、議題3「その他」について、事務局へ説明を求める。

◆事務局

議題3は特になしを報告する。

◇委員長

他の意見がないことを確認し、議事の終了を宣言する。

◆事務局

2点の事務連絡を行う。

【事務連絡1】

令和5年12月までに町内すべての小中学校へ電子図書館利用のID付与が完了したことを報告。接続テスト、実際の運用開始も既に開始していることを説明。

【事務連絡2】

委員の任期については、令和7年5月までであることを報告。

挨拶をして会議の終了を宣言する。